

明治 建築仕様書
 西洋家作雛形 Cottage Building

1. 研究目的

本稿は、『西洋家作雛形』(1872)を対象とした研究である。同書籍の原著は、『Cottage Building』であり、イギリスにおいて1849年に出版された。本研究では、同書籍の訳者、村田文夫(以下、村田)・山田貢一郎(以下、山田)の、翻訳の仕方における分析を行なう。この研究を通して、明治初期における英国と日本という、技術的にも文化的にも、大きな相違を背景とするなかにおいて、いかにして訳者が技術の移転を試みようとしたかについて、分析を試みたい。

2. 研究方法

上記目的のためにここでは、特に「明治初期の日本の建築技術において、その類例が見られない語句の表記」を対象にする。語句の表記方法に関して、分析を行い、訳者の村田・山田の意図的な翻訳の工夫について分析を行う。

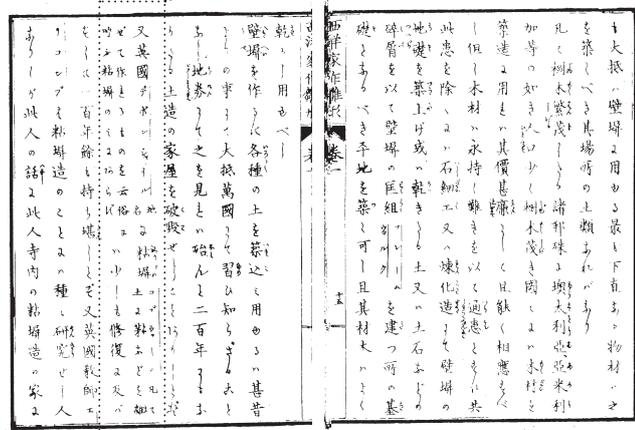


Fig.1 『西洋家作雛形』の書影と組版例

3. 意図的な翻訳の工夫

『Cottage Building』において、翻訳当時の日本に類例が見られない構法が、同書、水道設備に関して「Drainage, and Supply of Water」¹、換気空調設備に関して「Ventilation and Warming」²、また壁「Walls」³の構法説明の各所に見られる。これらの項目について、以下のような翻訳上の表記傾向が見られた。全体を通し、英熟語を翻訳する際、その読みの音を“カタカナ”表記にしたものと、熟語を各単語にまで分解して直訳を行った日本語表記を併記する例が散見された。

また、Fig3のようにルビを左右両方につけて対応している場合も見受けられる。このような表記上の傾向が、特に壁構法に関する記述において顕著に見られた。壁についての記述は『Cottage Building』「Chapter2_Section III -WALLS」と『西洋家作雛形』「第三編 壁塀の事」⁴が対応する。まず壁については、『Cottage Building』において全8種類紹介されており、文章における補足や省略をおこなわず、原文のままの逐語訳を試みている。一方、単語/熟語に関しては、前述の片仮名と日本名併記などの形式や、補足的な説明を下部に、二行の構成にて文章とは別の扱いで加えるなどして記述されている。これは、底本にはないものであり、村田・山田が独自に、その内容を理解した上で説明を加えたものと考えられる。

4. 考察 - 訳者の意図

断片的ではあるが、訳者である村田・山田の意識的な翻訳の仕方が見受けられる。それら翻訳の特徴から、以下のように考察を行う。翻訳当時の日本において、類例の無い構法を翻訳する際には、あくまで片仮名や、補足説明を用いて、直接的にその意味を伝えようとしていることが確認できる。こうした原語をカタカナ表記する特徴は同時期の他の出版物で確認する事ができない。こうした表記上の特徴が、前述のように、特に壁に関する紹介の中において、顕著に現れる。このことは、日本と西洋の壁の役割の大きな相違に起因するものと思われる¹⁰、日本に紹介するに際して、誤認を避けるための注意を向けていたものと思われる。

Fig.2 具体例 「粘塀」に関する記述箇所

一方、日本の在来構法に類例が認められるものについては、在来構法の知識を援用することで、理解のされやすさを優先したと思われる。

このような、翻訳における態度は、訳者が日本の在来構法に関する建築的理解とともに、予想以上に Cottage Building における当時の英国でのレンガ構法ならびに付属する諸施設やその意味について理解を含めていたことが想定可能である。このような深い理解が、一体どのようにして生まれたのか現時点では不明である。

『西洋家作雛形』のこのような翻訳の態度は、明治初期における技術移転に際する過渡期的の様子を示すものとして、重要な事例であると考えられる。



Fig.3. 左右両方にルビがある「白壁」

右ルビ：しらつち

左ルビ：チヨーク

5. 結論

以上『西洋家作雛形』翻訳当時の日本において、日本に類例のない構法と類例のある構法の翻訳の仕方を分析した。そして訳者である村田・山田の翻訳の仕方の傾向の考察を行った。日本に類例のない構法を翻訳する場合には文意を直接的に伝えようと試みており、特に概念として誤認しかねない「壁」についてはその傾向が顕著に見られることがわかった。

註釈 1. 『Cottage Building』 (pp.23-30) 2. 『Cottage Building』 (pp.48-54) 3. 『Cottage Building』 (pp.30-39) 4. 『西洋家作雛形』 (14-29 丁) 5. 『Cottage Building』 (p44.4 行目)

図版出典 Fig1. 『西洋家作雛形』 (巻之一 15 丁) Fig2. 『西洋家作雛形』 (巻之一 15 丁) Fig3. 『西洋家作雛形』 (巻之一 7 丁 1 行目) Fig4. 筆者作成。

原文表記	A (単語/熟語)	B (ルビ)	C (読みのカタカナ表記)	D (補足説明) ※
frame-work	匡組	王くくミ	フレームウヲルク	-
cob walls	粘塼	粘りべい	コブウヲール	凡て土尔茅奈などを雜せて作連るものを云俗尔呼ぶ粘塼の〇尔なら比
The pise	鑄形造	い可多つくり	バーはウァーリンク	次尔許可奈り
bushel	-	-	ビユッセル	一ビユッセルハ凡我一升八合許
joist	根板	粘多	フロールジョースト	-
partition boards	隔柱	へ多て春しら	バルチーシヨンボード	-
solid walls	實壁	じつへき	-	実壁と八空窩無き壁を云ふ
Mud walls	泥壁	-	モッドウヲール	-
hollow walls	窩壁	阿奈つくり	ホルロウウヲール	粘き土塊尔て作り多る壁を云ふ前尔許奈り
partition	界壁	-	バルチーシヨン	-
flintbuilt	燧石造	ひうちいしづくり	フリント、ビルト	-
rough-cast	ローフカスト	-	-	-
principle of frexco	フレスコの法	-	-	新尔漆灰尔て塗立多る尔て彩色春る法
Lime-ash floors	石灰床	いし者い由可	ライム、アス、フロール	-
ground floors	地床	ぢ由可	ガラウンド、フロール	但二階の床尔對して云ふ
battens	床板	由可い多	バツテン	-
Asphalt	地瀝青	ぢ連起せい	アスハルチ	-
wood for plates	ウヲール、プレート	-	-	壁の上尔ある横木尔して根板を支える毛の奈り
skirting-boards	スキルチング、ボード	-	-	座板の縁に付き多る狭くして真直奈る板
gutter fillet	樋	とひ	ゴツトル、ヒルレット	-
slate	盤石	ばんせ起	スレート	-
putty	ピユッチー	-	-	胡麻油と石灰を混和し
chimney-shaft	チムニー、シヤフト	-	-	烟出しの屋根より上へ出多る部分を云ふ
grating	グレート	-	-	火焚場尔付き多る石炭

Fig. 4. 新しい構法の説明に見られる表記の一例 (※『西洋家作雛形』で村田・山田が追加した『Cottage Building』には記述されていない構法の補足説明)

*1 早稲田大学 学士 (工学)

*2 早稲田大学理工学術院 教授 博士 (工学)

*1 Waseda Univ.

*2 Prof, Faculty of Sciences and Engineering, Waseda Univ., Dr. Eng.